

貧困を考える④ 貧困に関する課題解決

普遍主義と選別主義

広く浅くの普遍主義か、対象者を絞って狭く深くの選別主義か…この問題に係っては、バラマキ福祉や高所得高齢者を含む一律優遇が話題となったこともある。ここでは、選別主義の有り方のひとつとして、対象者と援助内容、手法について一例を示しながら考える。

子どもの貧困に係っては、対象者を乳幼児時と高校進学時の対象者にターゲットを絞りたい。乳幼児時には、手や目が離せない手間や世話のかかる時期でもある。さらに、低年齢であればあるほど、貧困のダメージや人格形成への影響が大きいこともあげられる。高校進学時には、義務教育の終了時でもある。就学援助の手立てはあるにしろ、義務教育ほどには手厚くない。また、親の心情としても、せめて高校は…という想いも存在しよう。高校卒業時になれば、進学あるいは就職するにしても自活・自立の道も開けてくる。

直接支援と環境支援

子育てにあたっては、金銭援助と人的支援、環境整備などがある。まずは低所得という物理的貧困を少しでも軽減することで、生活負担が少なくなり子育てに携わる時間を増やしたい。環境支援に際しては、個々人の支援という視点よりも社会基盤としての環境や設備、スタッフ、制度の整備を考えたい。注目すべきは、民間支援による「子ども食堂」の運営である。食は生きていくに不可欠な要素である上に、提供者（作る人）と受益者（食べる人）の触れ合いにもなり得る。さらに、地域のスーパーやコンビニなどと提携することで、余剰食材の廃棄防止にもつながる。それは食材自体のいのちに係ることでもある。

所得の再配分に係る非効率

難しい分野である。前号に示すように若年層が高齢層を賄っていく方式では、少子高齢化や所得のアンバランス（若年層ほど給与水準が低いなど低所得）で不公平感がある上に非効率である。逆ピラミッド型の再配分を再考したい。

多元的貧困と線引き

①所得…貧困ラインを下回る

現金給付が最も即効的であり、支給のラインも所得に沿って判定するので比較的引きやすい。だが、現金が何にどう使われるかは、多くの場合本人に委ねられているため、透明性に欠ける。酒やパチンコ、あるいは生活水準に見合わない浪費、支給依存なども考えられる。金銭管理のヘルパーがつくのは稀である。しかし、これらを差し引いても有効な手法であることは言うまでもない。

②教育…低学力 高校進学

低学力には少人数学級や放課後指導。高校進学には申請による高校無償化および就学援助費によって対応したい。義務教育の小中学校と違って手薄になりがち。子どもの居場所支援と

しては、放課後学級（児童ホーム）などが考えられる。

③セーフティ・ネット…保障の手当や制度の適用外 または自閉

安全網。網の目のように救済策を張ることで、全体に対して安全や安心を提供するための仕組みで社会保障の一種。課題は「ネットをどう構築するか」と「漏れなく適用するか」の2点。健康プログラム、就労支援、悩み相談などのネットが必要。周知には、相談窓口、巡回や面会、インターネット活用が考えられる。対象者の趣向や状況によって、選べるように複数のルートを提供したい。また、どの機関がどんな役割を果たせばいいか、連携していくべきかを民間も含めて調整することが望ましい。

④健康…日常生活に支障をきたす心身状態

健診については、職場（会社）の正規雇用者の場合は、概ね受診の環境にある。しかし、個人の店への就業や非正規雇用者、無職の場合、機会や費用の面から受診は疎遠になりがちである。健診を健康プログラムの一環に組み込むとともに、健康支援、生活・環境改善、栄養指導、悩み相談、就労支援など生活全般に係るアドバイスと連携システムを提供したい。

①～④について共通して言えることは、人・もの・お金・システムをどうつなげて活用していくかに尽きる。「直接」「間接」「連携」したつながりや触れ合いが肝要である。

排除思想・社会と孤立・自閉

「貧困は甘えである」「自己責任」といった考えが目立つ世の中である。これは、個の価値観やライフスタイルが重んじられる世間の風潮とも関連する。個別主義、個人主義の視点が強すぎて、社会全体が排除思想に傾いているふしも見受けられなくもない。その一方で、貧困に限らず、社会が受容しない結果としての「孤立」や社会との関わりを拒む「引きこもり」も問題となっている。こちらは個の孤立である。風潮を一気に変えるのは難しい。前項にあげたセーフティ・ネットの構築・充実と社会への地道な啓発を進めていくことが大事と思われる。

以上、貧困に関わる課題解決の一考察を述べてきたが、実際には理屈通りになかなかいかないかも知れない。参考の一助程度に読んで頂ければ、幸いである。

<参考資料>

☆「所得格差・貧困・再分配政策」(2015) 一橋大学 経済研究所 小塩 隆士

☆子どもの貧困(2008) 子どもの貧困Ⅱ(2014) 阿部 彩 岩波新書

☆学力の向上に向けた取り組み 一貧困・排除の拡大と学校が担うべき課題— (2016)大阪府立大 西田 芳正